

# 新クリーンセンター建設に係る 環境影響評価方法書の概要

平成24年9月

佐 久 市

# 1. 事業計画の概要

---

【方法書 P.1-1~】

# 1. 事業計画の概要

方法書 P.1-1、2-5

●事業の名称： 新クリーンセンター建設事業

●事業者の名称：

佐久市等を構成団体とする一部事務組合  
(平成26年4月設立予定)

●計画処理区域：

佐久市、軽井沢町、立科町、御代田町、小海町、  
佐久穂町、川上村、南牧村、南相木村、北相木村

●処理能力：

110t/日 (55t/日 × 2炉)



長野県環境影響評価条例  
「処理量4t/時以上」  
(96t/日以上)に該当

●稼働開始年度： 平成29年度

## 2. 環境影響評価の項目

---

【方法書 P.4-1~】

## 2. 環境影響評価の項目

方法書 P.4-1~

「長野県環境影響評価技術指針」を基に、事業の特性及び地域の特性を考慮し、以下の計17項目を選定

環境要素 影響要因	大気	騒音	振動	低周波音	悪臭	水質	水象	土壌汚染	地盤沈下	地形・地質	植	動物	生態系	景観	触れ合い活動の場	文化財	廃棄物等	温室効果ガス等
	工事	○	○	○			○	△			△	○	○	○		○		○
存在・供用	◎	○	○	△	◎	○	△	○	△	△	○	○	○	○	○		○	○

◎:重点化項目、○:標準項目、△:簡略化項目、無印:非選定項目

# 3. 調査、予測及び評価

---

【方法書 P.4-26～】

# 3-1. 大気質

---

【方法書 P.4-26～】

# (1) 調査(1/3)

## ● 調査項目

### ① 一般環境大気質

降下ばいじん、二酸化硫黄、  
二酸化窒素、浮遊粒子状物質、  
ダイオキシン類、塩化水素、  
地上気象、上層気象

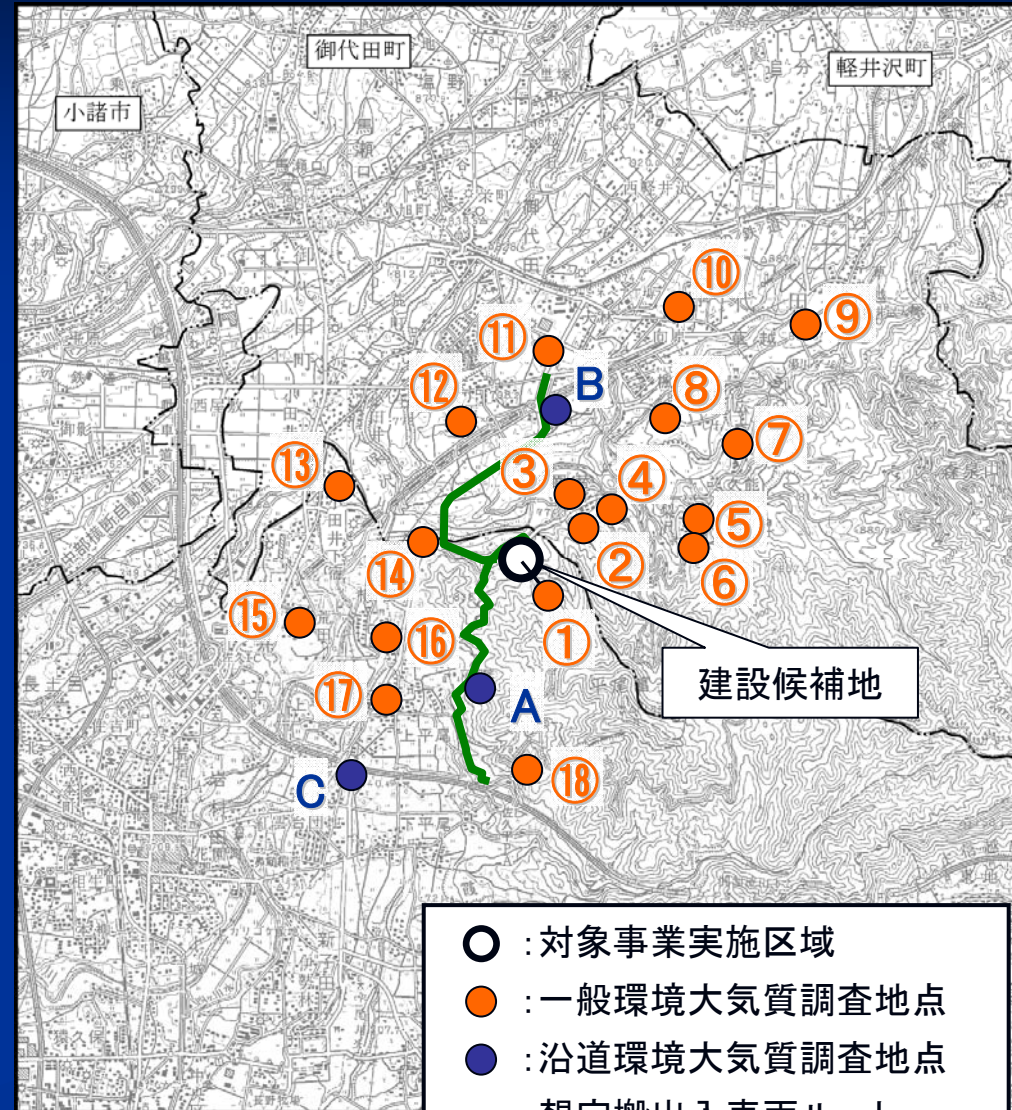
### ② 沿道環境大気質

降下ばいじん、二酸化窒素、  
浮遊粒子状物質、ベンゼン、  
地上気象

## ● 調査地点

① 一般環境大気質：18地点

② 沿道環境大気質：3地点





# (1) 調査(2/3)

## ● 調査地点について

調査地点は下記の視点から設定

### ■ 対象事業実施区域

- ・建設候補地(①)

### ■ 地区の代表的な場

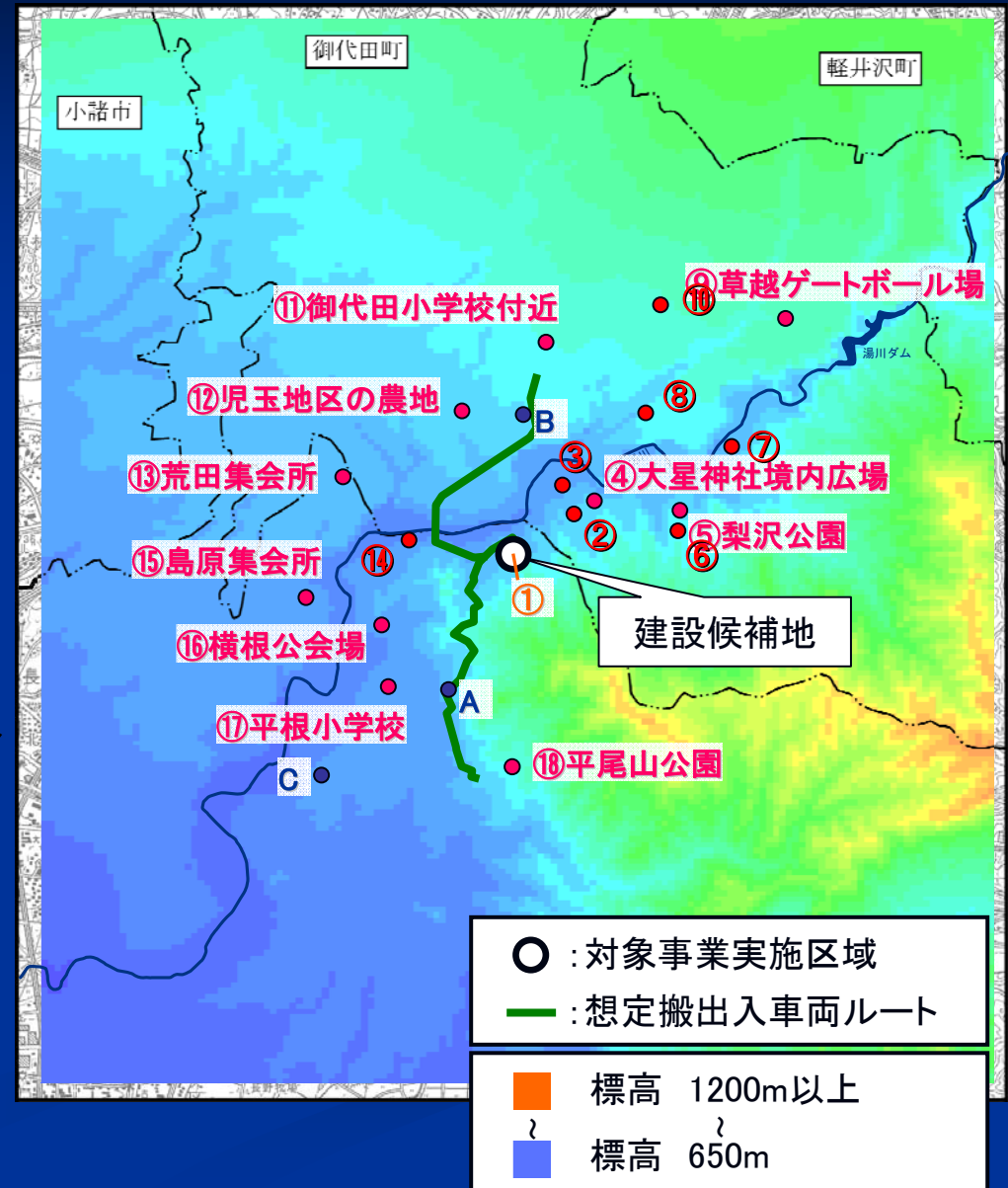
- ・公共の広場、集会場、小学校など  
(④,⑤,⑨,⑪,⑫,⑬,⑮,⑯,⑰,⑱)

### ■ 地形的な特殊性を有する場所

- ・周辺の地形が複雑な場所、低地など  
(②,③,⑥,⑦,⑧,⑩,⑭)

### ■ 車両走行ルート沿い

- ・市道南北線(A)、ふるさと農道(B)、  
市道S7-103号(C)



# (1) 調査(3/3)

## ● 調査方法

降下ばいじん: 「衛生試験法・注解」に定める方法

二酸化硫黄、浮遊粒子状物質: 「大気の汚染に係る環境基準について」に定める方法

二酸化窒素: 「二酸化窒素に係る環境基準について」に定める方法

塩化水素: 「大気汚染物質測定法指針」に定める方法

ダイオキシン類: 「ダイオキシン類に係る大気環境調査マニュアル」に定める方法

ベンゼン: 「有害大気汚染物質測定方法マニュアル」に定める方法

地上気象: 「地上気象観測指針」に定める方法

上層気象: パイロットバルーン(風向・風速)、低層ゾンデ(気温)による方法

## ● 調査頻度・時期等

大気質: 4季(各1週間)

地上気象: 通年又は4季(各1週間)

上層気象: 2季(夏季・冬季、各1週間)

## (2) 予測(1/3)

### ● 予測事項及び予測方法

#### ① 工事による影響

影響要因	予測事項	予測方法
運搬 (機械・資材・廃材等)	工事関係車両の走行に伴い発生する二酸化窒素、浮遊粒子状物質	大気拡散式 (プルーム式・パフ式)
	降下ばいじん	類似事例の引用若しくは解析
土地造成(切土・盛土)	降下ばいじん	ユニット法による降下ばいじん量の予測
掘削		
舗装工事・コンクリート工事		
建築物の工事		

## (2) 予測(2/3)

### ● 予測事項及び予測方法(つづき)

#### ② 存在・供用による影響

影響要因	予測事項	予測方法
自動車交通の発生	運搬車両の走行に伴い発生する二酸化窒素、浮遊粒子状物質	大気拡散式(プルーム式・パフ式)
焼却施設の稼働	煙突排ガスからの二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、塩化水素、ダイオキシン類	○長期平均濃度 風系推計モデル(三次元マスコンモデル)と大気拡散モデル(移流パフモデル)により予測
		○短期高濃度 上層気象の現地調査結果及び計画施設の配置計画等に基づき、特定条件の短期高濃度を予測

## (2) 予測(3/3)

### ● 予測地域・地点

#### ① 工事による影響

- ・ 運搬(機械・資材・廃材等) : 現地調査地点と同様
- ・ 土地造成(切土・盛土)等 : 工事箇所付近に位置する集落

#### ② 存在・供用による影響

- ・ 自動車交通の発生 : 現地調査地点と同様
- ・ 焼却施設の稼働 : 事業実施区域及びその周辺

### ● 予測対象時期等

#### ① 工事による影響

降下ばいじんによる影響が最大となる時期

#### ② 存在・供用による影響

施設が定常的に稼働する時期

## (3) 評価

### ● 評価の内容

予測の内容に準じる

### ● 評価の方法

#### (1) 環境に対する影響緩和の観点

- ・ 大気質に係る環境影響が実行可能な範囲で回避又は低減されているか 評価する

#### (2) 環境保全のための目標値との整合の観点

- ・ 大気の汚染に係る環境基準及び塩化水素に係る目標環境濃度を環境保全目標として、その目標との整合が図られているか否か 評価する

## 3-2. 騒音・振動・低周波音

---

【方法書 P.4-34~】

# (1) 調査(1/2)

3-2. 騒音・振動・低周波音

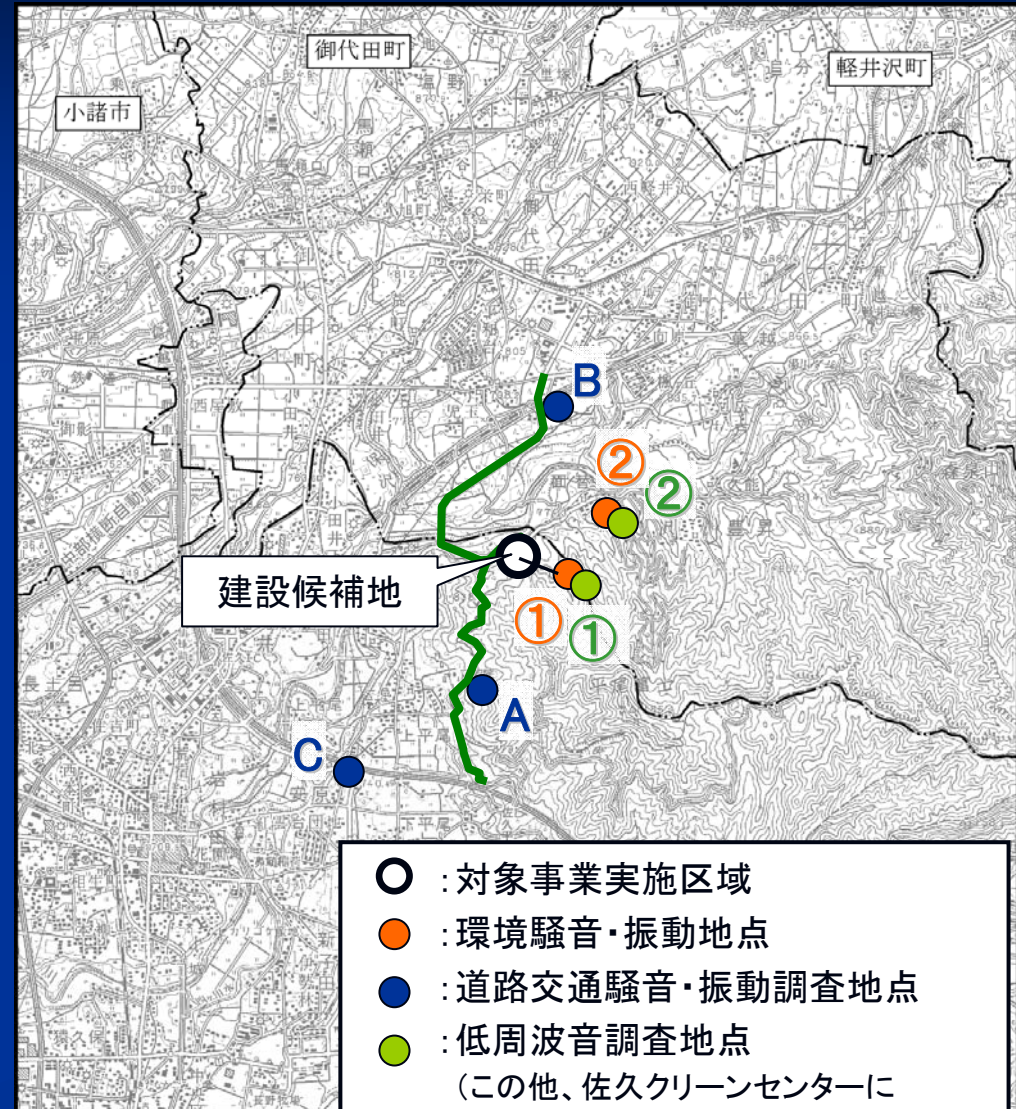
方法書 P.4-34～、4-38、4-41～

## ● 調査項目

- ・環境騒音・振動
- ・道路交通騒音・振動
- ・交通量
- ・地盤卓越振動数
- ・低周波音

## ● 調査地点

- ①環境騒音・振動: 2地点
- ②道路交通騒音・振動、  
交通量、地盤卓越振動数:  
3地点
- ③低周波音: 3地点





# (1) 調査(2/2)

3-2. 騒音・振動・低周波音

方法書 P.4-34、4-38、4-41

## ● 調査方法

騒音: 環境基準に定める方法

振動: 「振動規制法施行規則」に定める方法

交通量: 車種別にカウンターを用いる方法

地盤卓越振動数: 「道路環境整備マニュアル」に定める方法

低周波音: 「低周波音の測定に関するマニュアル」に定める方法

## ● 調査頻度・時期等

・1回(平日、24時間連続)

## (2) 予測(1/4)

### ● 予測事項及び予測方法【騒音】

#### ① 工事による影響

影響要因	予測事項	予測方法
運搬 (機械・資材・廃材等)	工事関係車両の走行に伴う道路交通騒音	日本音響学会提案式 (ASJ RTN-Model 2008)
土地造成(切土・盛土)	建設作業騒音	音の伝搬理論式
掘削		
舗装工事・コンクリート工事		
建築物の工事		

#### ② 存在・供用による影響

影響要因	予測事項	予測方法
自動車交通の発生	運搬車両の走行に伴う道路交通騒音	日本音響学会提案式 (ASJ RTN-Model 2008)
焼却施設の稼働	施設の稼働音	音の伝搬理論式

## (2) 予測(2/4)

### ● 予測事項及び予測方法【振動】

#### ① 工事による影響

影響要因	予測事項	予測方法
運搬 (機械・資材・廃材等)	工事関係車両の走行に伴う道路交通振動	旧建設省土木研究所提案式
土地造成(切土・盛土)	建設作業振動	振動の距離減衰式
掘削		
舗装工事・コンクリート工事		
建築物の工事		

#### ② 存在・供用による影響

影響要因	予測事項	予測方法
自動車交通の発生	運搬車両の走行に伴う道路交通振動	旧建設省土木研究所提案式
焼却施設の稼働	施設の稼働振動	振動の距離減衰式

## (2) 予測(3/4)

### ● 予測事項及び予測方法【低周波音】

#### ① 存在・供用による影響

影響要因	予測事項	予測方法
焼却施設の稼働	施設の稼働に伴う低周波音	類似施設の敷地境界における低周波音の測定結果をもとに定性的に予測

## (2) 予測(4/4)

### ● 予測地域・地点

#### ① 工事による影響

- ・ 運搬(機械・資材・廃材等) : 現地調査地点と同様
- ・ 土地造成(切土・盛土)等 : 工事箇所付近の近傍に位置する集落

#### ② 存在・供用による影響

- ・ 自動車交通の発生 : 現地調査地点と同様
- ・ 焼却施設の稼働 : 事業実施区域及びその周辺  
(低周波音 : 事業実施区域の敷地境界から200mの範囲内)

### ● 予測対象時期等

#### ① 工事による影響

工事による影響が最大となる時期

#### ② 存在・供用による影響

施設が定常的に稼働する時期

## (3) 評価

### ● 評価の内容

予測の内容に準じる

### ● 評価の方法

#### (1) 環境に対する影響緩和の観点

- ・ 騒音・振動・低周波音に係る環境影響が実行可能な範囲で回避又は低減されているか 評価する

#### (2) 環境保全のための目標値との整合の観点

- ・ 下記を環境保全目標として、その目標との整合が図られているか否か評価する

【騒音】騒音に係る環境基準及び騒音規制法の規制基準

【振動】振動に係る要請限度及び振動規制法の規制基準

【低周波音】「低周波音問題対応の手引き書」の低周波音に対する参照値等を参考に設定する環境保全目標

## 3-3. 悪臭

---

---

【方法書 P.4-44~】

# (1) 調査

## ● 調査項目

- ・ 臭気指数
- ・ 特定悪臭物質

## ● 調査地点

13地点

## ● 調査方法

臭気指数：

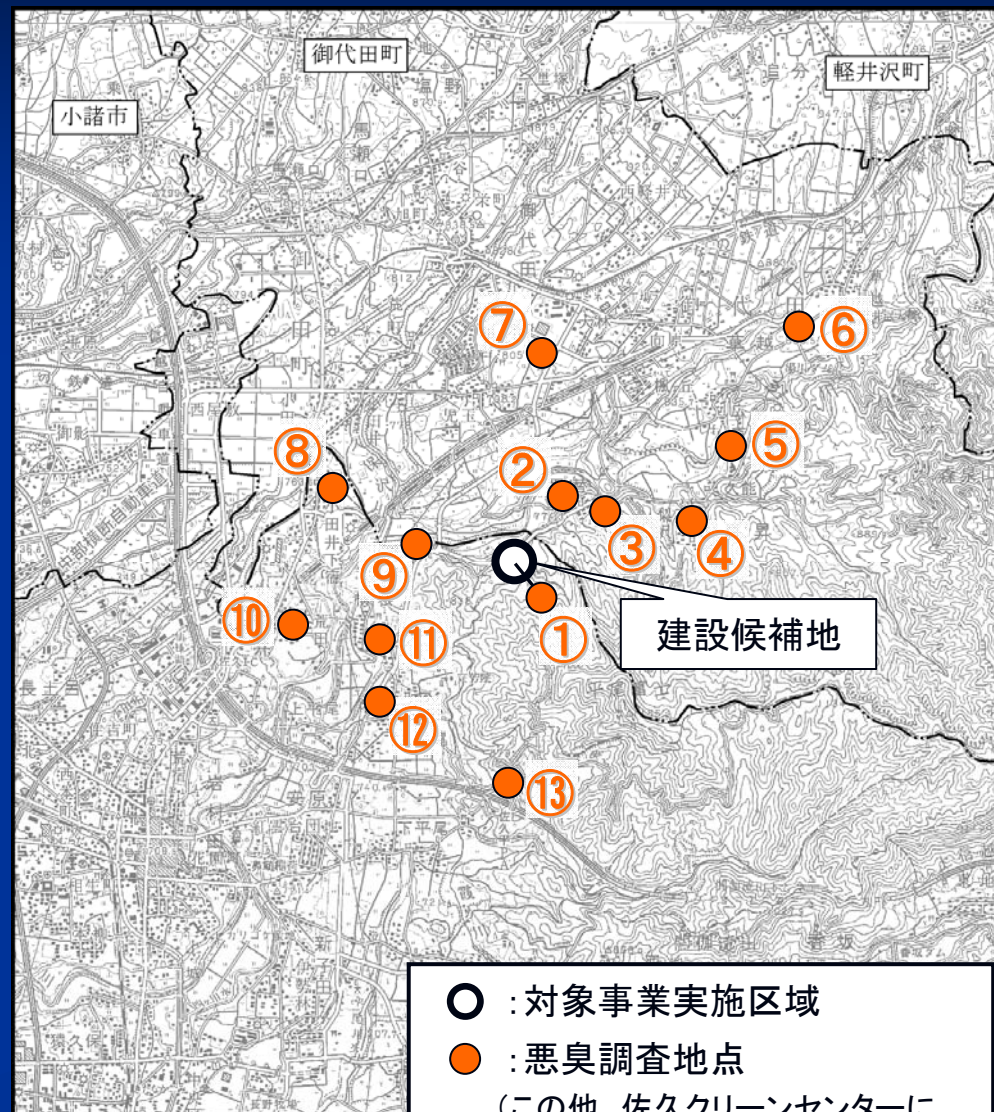
「臭気指数及び臭気排出強度の算定の方法」に定める方法

特定悪臭物質：

「特定悪臭物質の測定の方法」に定める方法

## ● 調査期間

- ・ 1回(夏季)



○ : 対象事業実施区域

● : 悪臭調査地点

(この他、佐久クリーンセンターにおいても悪臭調査を実施)



## (2) 予測

### ● 予測事項及び予測方法

#### ① 存在・供用による影響

影響要因	予測事項	予測方法
焼却施設の稼働	煙突排出ガスによる悪臭	大気拡散式(プルーム式・パフ式)
	施設からの悪臭の漏洩	類似事例の引用若しくは解析

### ● 予測地域・地点

焼却施設の稼働: 事業実施区域及びその周辺

### ● 予測対象時期等

施設が定常的に稼働する時期

## (3) 評価

### ● 評価の内容

予測の内容に準じる

### ● 評価の方法

#### (1) 環境に対する影響緩和の観点

- ・ 悪臭に係る環境影響が実行可能な範囲で回避又は低減されているか 評価する

#### (2) 環境保全のための目標値との整合の観点

- ・ 悪臭防止法に基づく規制基準を環境保全目標として、その目標との整合が図られているか否か 評価する

## 3-4. 水質

---

【方法書 P.4-48~】

# (1) 調査(1/2)

## ● 調査項目

### ① 河川

浮遊物質(SS)、河川流量、  
降雨量、土質の状況、  
生活環境基準項目、健康項目、  
ダイオキシン類

### ② 地下水

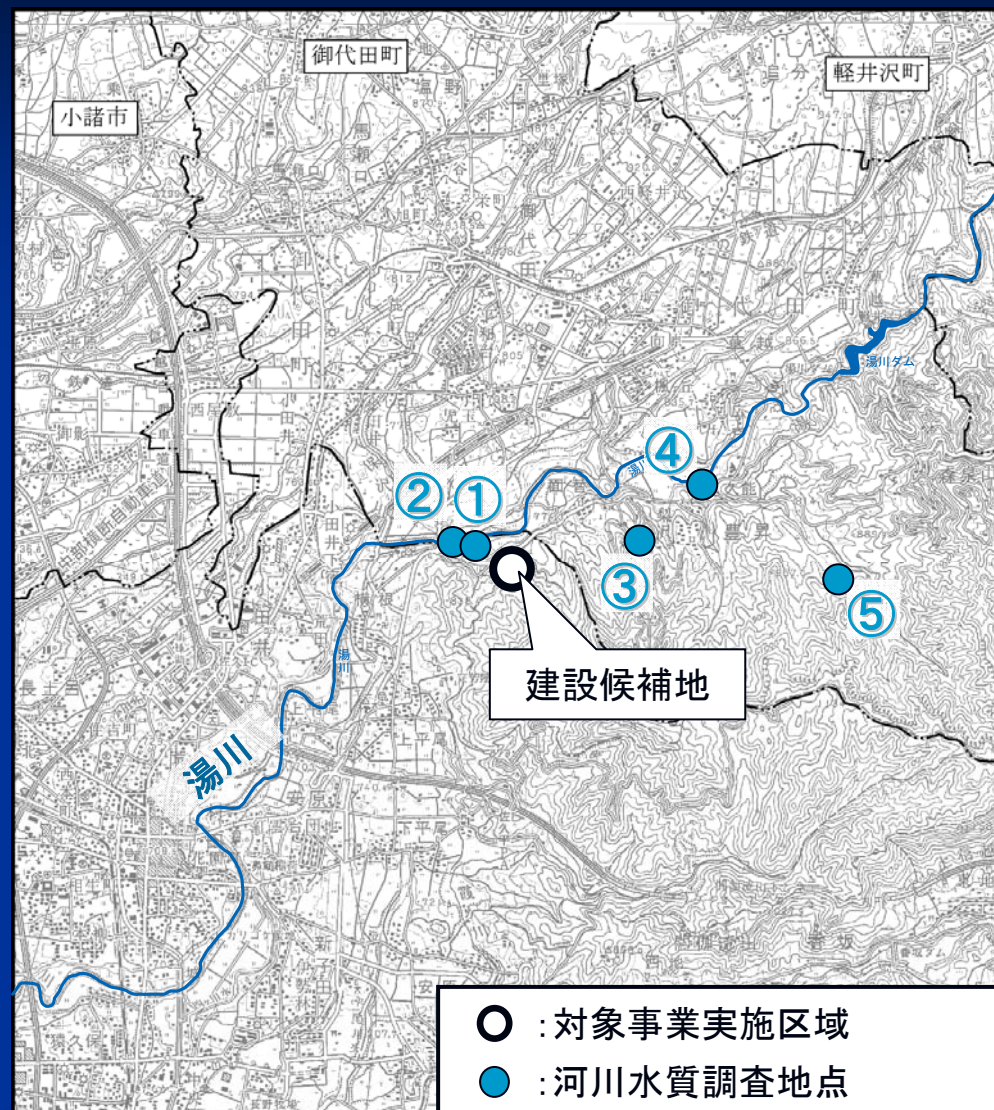
環境基準項目、ダイオキシン類、  
地下水位

## ● 調査地点

### ① 河川: 5地点

(調整池、湯川、湧水等)

### ② 地下水: 対象事業実施区域 周辺の既存井戸にて実施



○ : 対象事業実施区域

● : 河川水質調査地点

(地下水については、対象事業実施  
区域周辺の既存井戸にて実施)

# (1) 調査(2/2)

## ● 調査方法

浮遊物質量(SS)、生活環境基準項目、健康項目：  
「水質汚濁に係る環境基準について」に定める方法

河川流量：JIS K0094に基づく方法若しくは「建設省河川砂防技術基準(案)  
同解説、調査編」に基づく流速計測法

降雨量：気象庁・佐久地方気象観測所の観測データ整理

土質の状況：粒度組成分析及び土壌沈降試験

ダイオキシン類：「ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌汚染に係る環境基準について」に定める方法

地下水位：水位測定器による測定

## ● 調査頻度・時期等

浮遊物質量、河川流量：降雨時2回

降雨量：調査日及びその前後1週間程度

生活環境項目：年4回(春季、夏季、秋季、冬季)

健康項目、ダイオキシン類：年2回(夏季、冬季)

土質の状況：1回、地下水位：月1回(12回/年)

## (2) 予測(1/2)

### ● 予測事項及び予測方法

#### ① 工事による影響

影響要因	予測事項	予測方法
土地造成(切土・盛土) 掘削	土砂による水の濁り	類似事例の引用若しくは解析
舗装工事・コンクリート工事 建築物の工事	工事に伴うアルカリ排水の影響	類似事例の引用若しくは解析

#### ② 存在・供用による影響

影響要因	予測事項	予測方法
焼却施設の稼動	水の汚れ	類似事例の引用若しくは解析

## (2) 予測(2/2)

### ● 予測地域・地点

#### ① 工事による影響

対象事業実施区域の下流域

#### ② 存在・供用による影響

対象事業実施区域の下流域

### ● 予測対象時期等

#### ① 工事による影響

工事による影響が最大となる時期

#### ② 存在・供用による影響

施設が定常的に稼働する時期

## (3) 評価

### ● 評価の内容

予測の内容に準じる

### ● 評価の方法

#### (1) 環境に対する影響緩和の観点

- ・ 水質に係る環境影響が実行可能な範囲で回避又は低減されているか 評価する

#### (2) 環境保全のための目標値との整合の観点

- ・ 水質に係る環境基準等を環境保全目標として、その目標との整合が図られているか否か 評価する



## 3-5. 水象・地盤沈下

---

【方法書 P.4-52～、4-60～】

# (1) 調査

## ● 調査項目

- ・地形・地質の状況
- ・地下水位
- ・対象事業実施区域周辺の既存井戸
- ・地下水の利用状況

## ● 調査方法、調査頻度等

### 地形・地質の状況:

ボーリング調査、標準貫入試験、透水性試験(1回)

### 地下水位:

水位計による測定(1年間連続)

### 周辺の既存井戸:

水位測定器による測定(月1回)

### 地下水の利用状況:

聞き取り調査(1回)



## (2) 予測(1/2)

### ● 予測事項及び予測方法

#### ① 工事による影響

影響要因	予測事項	予測方法
掘削	地下水	ごみピットの掘削工事による地下水位及び流れの変化については、掘削工法、掘削深度、底面積、土質の状況及び地下水位の測定結果から定性的に予測

#### ② 存在・供用による影響

影響要因	予測事項	予測方法
建築物・工作物等の存在	地下水	ごみピットの存在による地下水位及び流れの変化については、掘削工法、掘削深度、底面積、土質の状況及び地下水位の測定結果から定性的に予測

## (2) 予測(2/2)

### ● 予測地域・地点

#### ① 工事による影響

ごみピットの掘削工事による影響が及ぶ範囲

#### ② 存在・供用による影響

ごみピットが存在することによる影響が及ぶ範囲

### ● 予測対象時期等

#### ① 工事による影響

ごみピットの地下掘削時

#### ② 存在・供用による影響

ごみピットの存在時

# (3) 評価

3-5. 水象・地盤沈下

方法書 P.4-54、4-60

## ● 評価の内容

予測の内容に準じる

## ● 評価の方法

### (1) 環境に対する影響緩和の観点

- ・ 水象・地盤沈下に係る環境影響が実行可能な範囲で回避又は低減されているか 評価する

## 3-6. 土壤汚染

---

---

【方法書 P.4-55～】

# (1) 調査

## ● 調査項目

- ・土壌の汚染に係る環境基準項目(カドミウム、鉛、水銀)
- ・ダイオキシン類

## ● 調査地点 16地点

## ● 調査方法

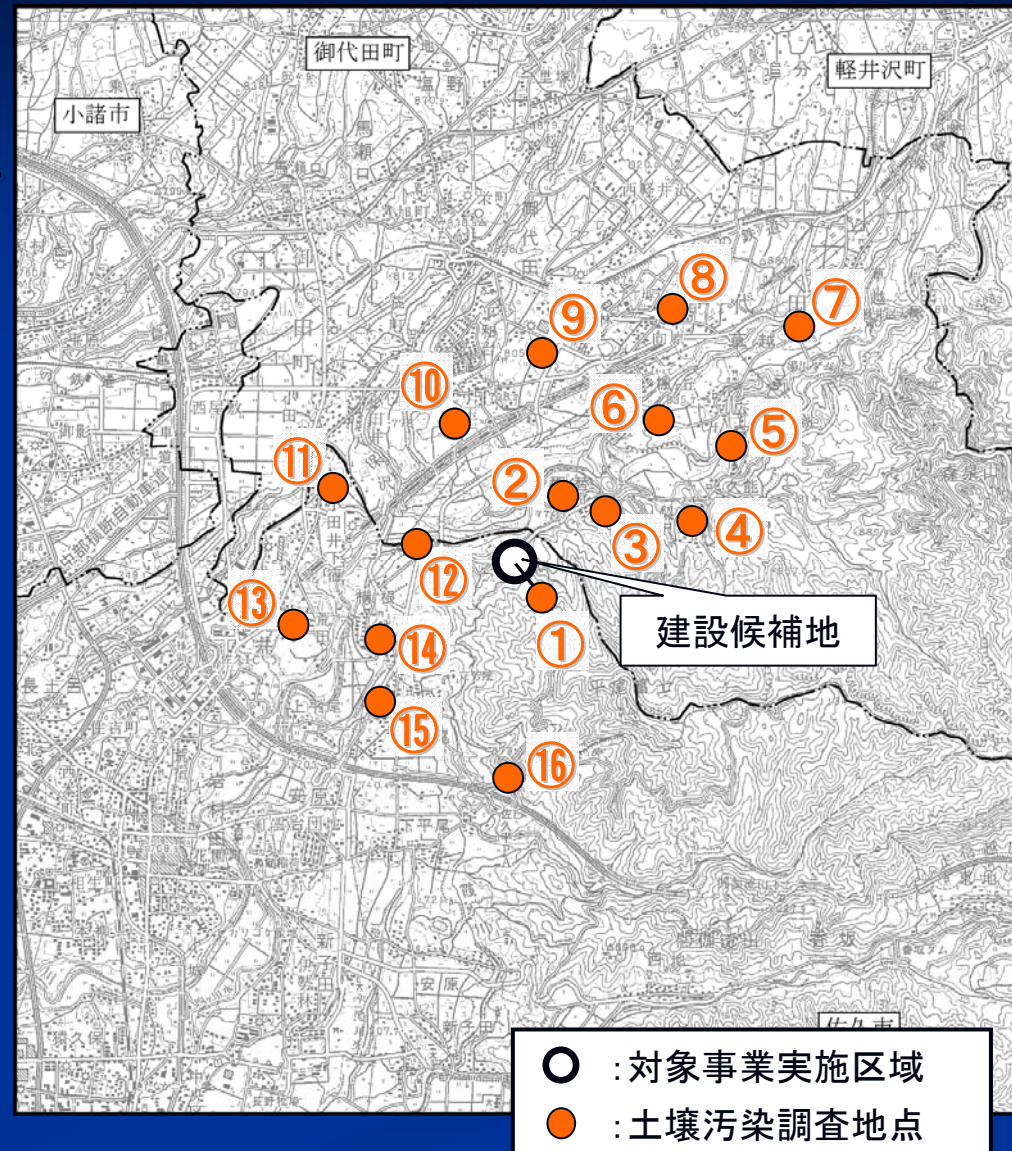
### 環境基準項目:

「土壌の汚染に係る環境基準について」に定める方法

### ダイオキシン類:

「ダイオキシン類に係る土壌調査測定マニュアル」に定める方法

## ● 調査頻度・時期等 1回



## (2) 予測

### ● 予測事項及び予測方法

#### ① 存在・供用による影響

影響要因	予測事項	予測方法
焼却施設の稼働	煙突排出ガスによる 土壌中のダイオキシン類	濃度大気質におけるダイオキシン類の 予測結果及び大気中のダイオキシン 類の土壌への沈着割合、ダイオキシン 類の半減期等のデータを基に、土壌内 ダイオキシン類濃度の推計

### ● 予測地域・地点

対象事業実施区域及びその周辺

### ● 予測対象時期等

施設が定常的に稼働する時期



## (3) 評価

### ● 評価の内容

予測の内容に準じる

### ● 評価の方法

#### (1) 環境に対する影響緩和の観点

- ・ 土壌汚染に係る環境影響が実行可能な範囲で回避又は低減されているか 評価する

#### (2) 環境保全のための目標等との整合の観点

- ・ ダイオキシン類に係る環境基準を環境保全目標として、その目標との整合が図られているか否か 評価する

## 3-7. 地形・地質

---

【方法書 P.4-61～】

# (1) 調査

## ● 調査項目

- ・土地の安定性

## ● 調査方法

- ・既存文献等又は聞き取りを参考に、地形・地質等の調査に基づき、危険箇所及び災害履歴を確認する方法

## ● 調査頻度・時期等

- ・1回



○ : 対象事業実施区域

⋯ : 地形・地質調査地域

## (2) 予測(1/2)

### ● 予測事項及び予測方法

#### ① 工事による影響

影響要因	予測事項	予測方法
土地造成(切土・盛土)	土地の安定性	土質工学的手法により予測
掘削		

#### ② 存在・供用による影響

影響要因	予測事項	予測方法
地形改変	土地の安定性	土質工学的手法により予測
建築物・工作物等の存在		

## (2) 予測(2/2)

### ● 予測地域・地点

- ・調査地域に準じる

### ● 予測対象時期等

#### ① 工事による影響

土地造成工事の工事中及び工事完了後

#### ② 存在・供用による影響

施設が定常的に稼働する時期

## (3) 評価

### ● 評価の内容

予測の内容に準じる

### ● 評価の方法

#### (1) 環境に対する影響緩和の観点

- ・ 地形・地質に係る環境影響が実行可能な範囲で回避又は低減されているか 評価する

## 3-8. 植物・動物・生態系

---

【方法書 P.4-64～】

# (1) 調査(1/3)

## ● 調査項目

### ① 植物

- ・植物相 ・植生
- ・注目すべき個体、集団、種及び群落

### ② 動物

- ・動物相
- ・注目すべき種及び個体群  
(哺乳類、鳥類、希少猛禽類、両生類・爬虫類、昆虫類、魚類、底生動物、陸・淡水産貝類)

### ③ 生態系



- : 対象事業実施区域
- (緑色点線) : 植物・動物調査地域



# (1) 調査(2/3)

## ● 調査方法、調査頻度・時期等

### ① 植物

植物相: 任意観察(4季: 早春季、春季、夏季、秋季)

植生: 植物社会学的手法、現存植生図作成(2回: 夏季、秋季)

注目すべき個体、集団、種及び群落: 注目すべき個体、集団、種及び群落が確認された場合に、生育地の日照条件、土壌条件、斜面方位、周辺植生等の確認(4季: 早春季、春季、夏季、秋季)

### ② 動物

哺乳類: 任意観察、フィールドサイン法、トラップ法、コウモリ類に係るバットディテクター調査及び捕獲調査(4季: 春季、夏季、秋季、冬季)

鳥類: ラインセンサス法、任意観察(5季: 春季、初夏、夏季、秋季、冬季)

希少猛禽類:

- ・ 営巣場所調査(2回: 3~4月)
- ・ 繁殖状況調査(1~8月に造巢中及び使用中の巣が確認された場合、5月1回、6月2回、7月1回)
- ・ 行動圏調査(1~8月×1営巣期、1回当たり2日間連続)

# (1) 調査(3/3)

3-8. 植物・動物・生態系

方法書 P.4-67、4-72

## ● 調査方法、調査頻度・時期等(つづき)

### ② 動物(つづき)

両生類・爬虫類: 直接観察、任意採取(4季: 早春季、春季、夏季、秋季)

昆虫類: 直接観察、任意採取、ライトトラップ、ベイトトラップ(4季: 同上)

魚類: 任意採取(3季: 春季、夏季、秋季)

底生動物: 任意採取、定量採取(4季: 早春季、春季、夏季、秋季)

陸・淡水産貝類: 直接観察、任意採取(4季: 同上)

### ③ 生態系

植物、動物その他の調査結果の解析

(生態系独自の現地調査は実施しない)

## (2) 予測(1/4)

### ● 予測事項及び予測方法【植物】

#### ① 工事による影響

影響要因	予測事項	予測方法
土地造成(切土・盛土)	植物相 植生 注目すべき個体、 集団、種及び群落	直接的・間接的影響による変化の程度又は消滅の有無について、対象事業計画との重ね合わせ、類似事例等により予測
樹木の伐採		

#### ② 存在・供用による影響

影響要因	予測事項	予測方法
建築物・工作物等の存在	植物相 植生 注目すべき個体、 集団、種及び群落	直接的・間接的影響による変化の程度又は消滅の有無について、対象事業計画との重ね合わせ、類似事例等により予測
夜間照明等		

## (2) 予測(2/4)

### ● 予測事項及び予測方法【動物】

#### ① 工事による影響

影響要因	予測事項	予測方法
土地造成(切土・盛土)	動物相、 注目すべき種及 び個体群	直接的・間接的影響による変化の程度又は消滅の有無について、対象事業計画との重ね合わせ、類似事例等により予測
樹木の伐採		
掘削		
舗装工事・コンクリート工事		
建築物の工事		

#### ② 存在・供用による影響

影響要因	予測事項	予測方法
焼却施設の稼働	動物相、 注目すべき種及 び個体群	直接的・間接的影響による変化の程度又は消滅の有無について、対象事業計画との重ね合わせ、類似事例等により予測
夜間照明等		

## (2) 予測(3/4)

### ● 予測事項及び予測方法【生態系】

#### ① 工事による影響

影響要因	予測事項	予測方法
土地造成(切土・盛土)	生態系	直接的・間接的影響による変化の程度又は消滅の有無について、対象事業計画との重ね合わせ、類似事例等により予測
樹木の伐採		
掘削		
舗装工事・コンクリート工事		
建築物の工事		

#### ② 存在・供用による影響

影響要因	予測事項	予測方法
建築物・工作物等の存在	生態系	直接的・間接的影響による変化の程度又は消滅の有無について、対象事業計画との重ね合わせ、類似事例等により予測
焼却施設の稼働		
夜間照明等		

## (2) 予測(4/4)

### ● 予測地域・地点

・調査地域に準じる

### ● 予測対象時期等

#### ① 工事による影響

工事中及び工事完了後

#### ② 存在・供用による影響

施設が定常的に稼働する時期

## (3) 評価

### ● 評価の内容

予測の内容に準じる

### ● 評価の方法

#### (1) 環境に対する影響緩和の観点

- ・ 植物・動物・生態系に係る環境影響が実行可能な範囲で回避又は低減されているか 評価する

## 3-9. 景観

---

【方法書 P.4-74~】



# (1) 調査

## ● 調査項目

- ・ 景観資源及び構成要素
- ・ 主要な景観

## ● 調査地点

7地点

## ● 調査方法

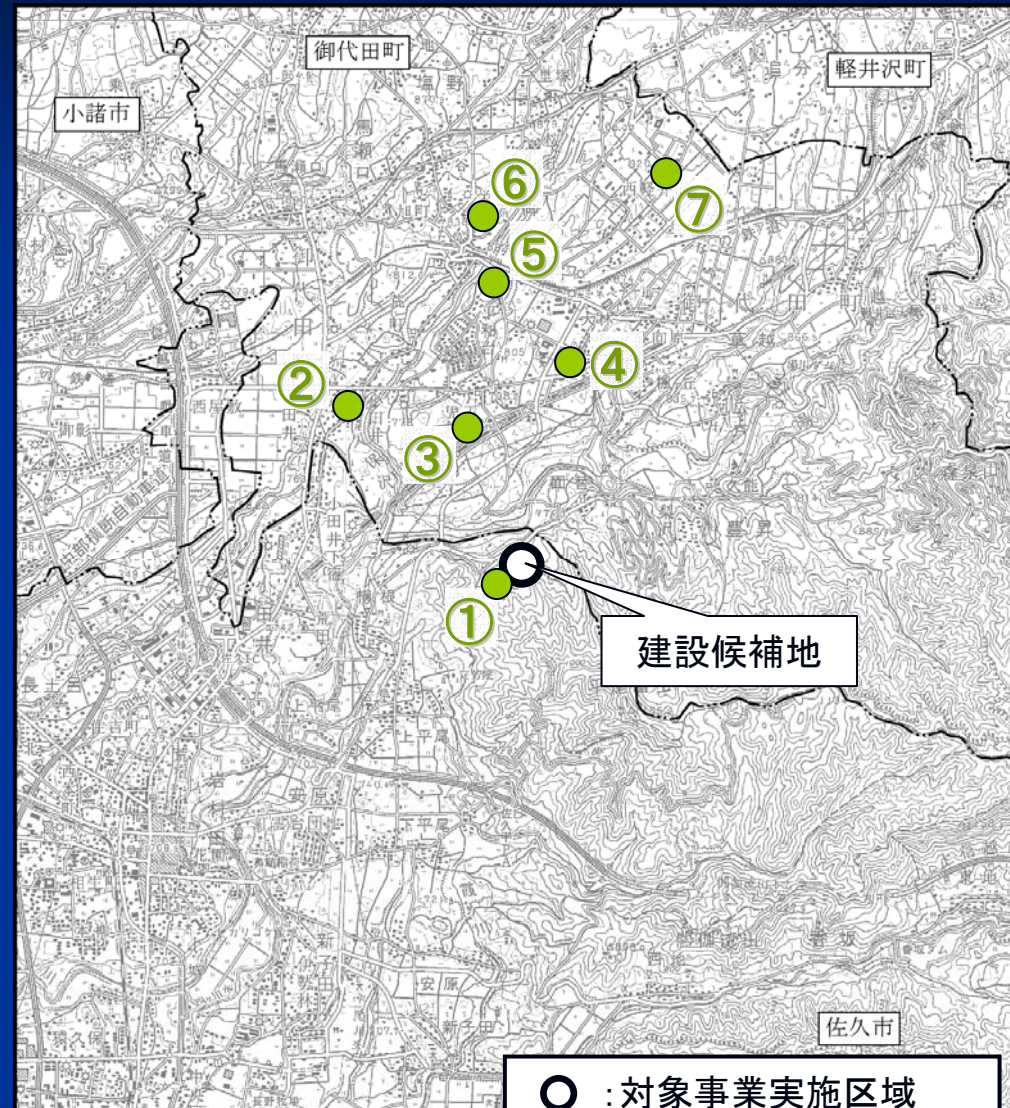
- ・ 現地踏査及び写真撮影

## ● 調査頻度・時期等

景観資源及び構成要素: 1回

主要な景観: 4回/年

(春季、夏季、秋季、冬季)



○ : 対象事業実施区域

● : 景観調査地点

## (2) 予測

### ● 予測事項及び予測方法

#### ① 存在・供用による影響

影響要因	予測事項	予測方法
建築物・工作物等の存在	景観資源・構成要素	直接的・間接的影響による変化の程度又は消滅の有無について、対象事業計画との重ね合わせ、フォト・モンタージュ法、類似事例等により予測
	主要な景観	

### ● 予測地域・地点

- ・ 景観資源及び構成要素：対象事業実施区域及びその周辺
- ・ 主要な景観：調査地点に準じる

### ● 予測対象時期等

- ・ 施設が定常的に稼働する時期

## (3) 評価

### ● 評価の内容

予測の内容に準じる

### ● 評価の方法

#### (1) 環境に対する影響緩和の観点

- ・ 景観に係る環境影響が実行可能な範囲で回避又は低減されているか 評価する

#### (2) 環境保全のための目標等との整合の観点

- ・ 景観に係る長野県景観条例に基づく浅間山麓景観育成重点地域景観計画及び佐久市景観基本計画を環境保全目標として、その目標との整合が図られているか 評価する

## 3-10. 触れ合い活動の場

---

【方法書 P.4-77~】

# (1) 調査

3-10. 触れ合い活動の場

方法書 P.4-77~

## ● 調査項目

- ・触れ合い活動の場の分布
- ・利用状況・資源状況・周辺環境の情報
- ・騒音・振動・低周波音の状況
- ・交通の状況

## ● 調査地点 5地点

## ● 調査方法、調査頻度等

### 触れ合い活動の場の分布:

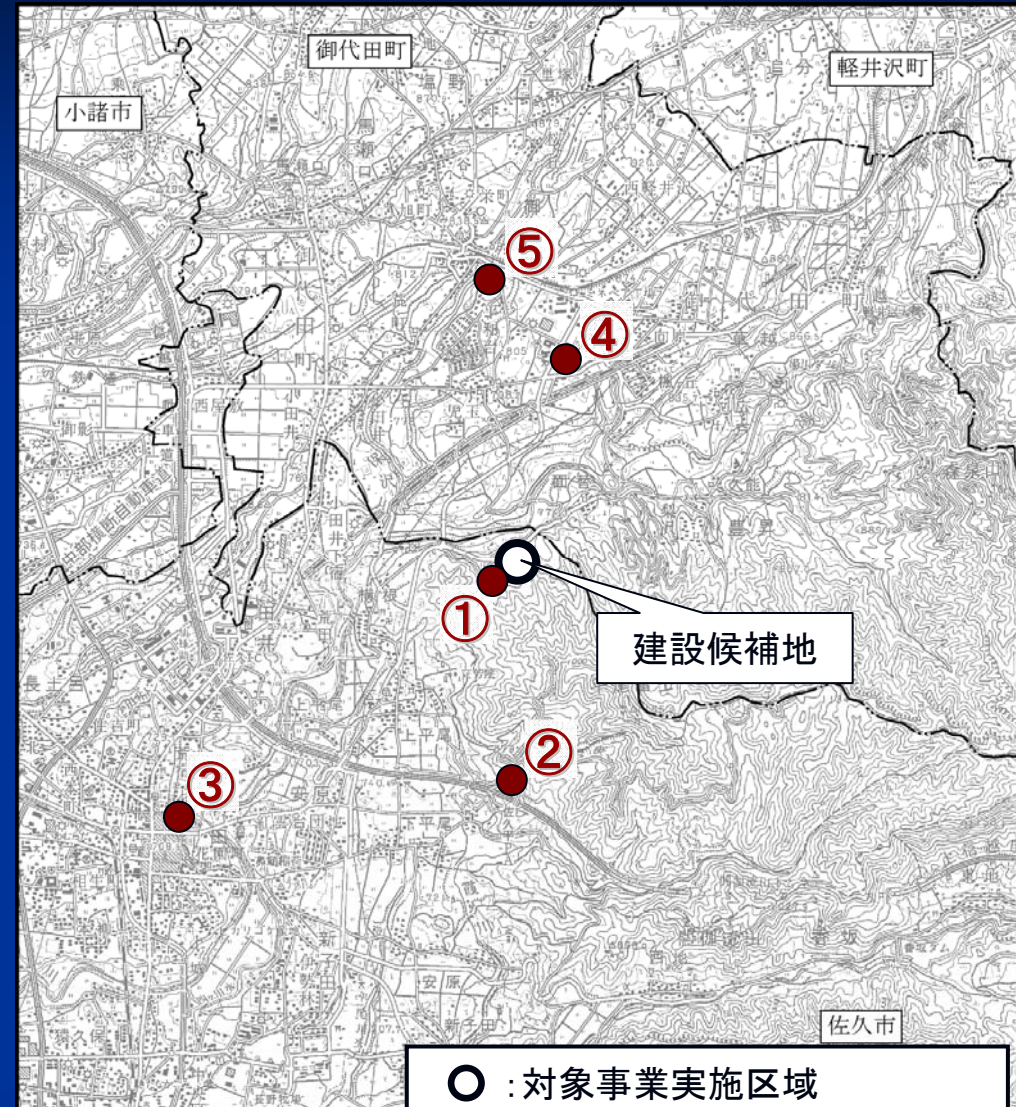
現地踏査(4季:春季、夏季、秋季、冬季)

### 利用状況等:

施設管理者からの聞き取り(1回)

### 騒音等の状況、交通の状況:

各項目の現地測定結果の引用



- : 対象事業実施区域
- : 触れ合い活動の場調査地点

## (2) 予測(1/3)

### ● 予測事項及び予測方法

#### ① 工事による影響

影響要因	予測事項	予測方法
運搬(機材・資材・廃材等)	交通の状況	工事関係車両の走行台数を踏まえ、渋滞に対する影響を予測
土地造成(切土・盛土)	騒音・振動の状況	「騒音」及び「振動」の評価結果に基づき予測
掘削		
舗装工事・コンクリート工事		
建築物の工事		

## (2) 予測(2/3)

### ● 予測事項及び予測方法(つづき)

#### ② 存在・供用による影響

影響要因	予測事項	予測方法
自動車交通の発生	交通の状況	運搬車両の走行台数を踏まえ、渋滞に対する影響を予測
焼却施設の稼働	騒音・振動・低周波音の状況	「騒音」、「振動」及び「低周波音」の評価結果に基づき予測

## (2) 予測(3/3)

### ● 予測地域・地点

#### ① 工事による影響

- ・ 運搬(機械・資材・廃材等) : 工事関係車両が集中する道路沿道
- ・ 土地造成(切土・盛土)等 : 対象事業実施区域から約200mの範囲

#### ② 存在・供用による影響

- ・ 自動車交通の発生 : 運搬車両が集中する道路沿道
- ・ 焼却施設の稼働 : 対象事業実施区域から約200mの範囲

### ● 予測対象時期等

#### ① 工事による影響

工事による影響が最大となる時期

#### ② 存在・供用による影響

施設が定常的に稼働する時期



## (3) 評価

### ● 評価の内容

予測の内容に準じる

### ● 評価の方法

#### (1) 環境に対する影響緩和の観点

- ・ 触れ合い活動の場に係る環境影響が実行可能な範囲で回避又は低減されているか 評価する

## 3-11. 廃棄物等

---

【方法書 P.4-82～】

# (1) 予測(1/2)

## ● 予測事項及び予測方法

### ① 工事による影響

影響要因	予測事項	予測方法
土地造成(切土・盛土)	発生土量、 建設副産物、 伐採木	工事の施工計画、環境保全対策及び類似事例等を参照することにより予測
樹木の伐採		
掘削		
舗装工事・コンクリート工事		
建築物の工事		
廃材・残土等の発生・処理		

### ② 存在・供用による影響

影響要因	予測事項	予測方法
焼却施設の稼働	廃棄物	事業計画、環境保全対策及び類似事例等を参照することにより予測
廃棄物の排出・処理		

## (2) 予測(2/2)

### ● 予測地域・地点

- ・対象事業実施区域

### ● 予測対象時期等

#### ① 工事による影響

工事期間全体

#### ② 存在・供用による影響

施設が定常的に稼働する時期

## (3) 評価

### ● 評価の内容

予測の内容に準じる

### ● 評価の方法

#### (1) 環境に対する影響緩和の観点

- ・ 廃棄物に係る環境影響が実行可能な範囲で回避又は低減されているか 評価する

#### (2) 環境保全のための目標等との整合の観点

- ・ 廃棄物等に係る長野県建設リサイクル推進指針を環境保全目標として、その目標との整合が図られているか 否か評価する

## 3-12. 温室効果ガス等

---

【方法書 P.4-84～】

# (1) 予測

## ● 予測事項及び予測方法

### ① 存在・供用による影響

影響要因	予測事項	予測方法
焼却施設の稼働	温室効果ガス等	事業計画、環境保全対策及び類似事例等を参照し、環境省温室効果ガス排出量算定マニュアル等により予測

## ● 予測地域・地点

- ・対象事業実施区域

## ● 予測対象時期等

- ・施設が定常的に稼働する時期

## (2) 評価

### ● 評価の内容

予測の内容に準じる

### ● 評価の方法

#### (1) 環境に対する影響緩和の観点

- ・ 温室効果ガス等に係る環境影響が実行可能な範囲で回避又は低減されているか 評価する

#### (2) 環境保全のための目標等との整合の観点

- ・ 温室効果ガス等に係る長野県地球温暖化防止県民計画における削減目標を環境保全目標として、その目標との整合が図られているか否か 評価する